

事業名称	鹿児島県地域ミュージアム情報発信事業		
実行委員会	鹿児島県ミュージアム国際化実行委員会		
中核館	鹿児島県歴史資料センター黎明館		
	住所	〒892-0853 鹿児島市城山町7-2	
	TEL	099-222-5100	FAX 099-222-5143
	ホームページ	http://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/	
構成団体	鹿児島県歴史資料センター黎明館，鹿児島市立美術館，尚古集成館，鹿児島県立博物館，鹿児島市平川動物公園，公益財団法人長島文化財団長島美術館，南さつま市坊津歴史資料センター輝津館，薩摩川内市川内歴史資料館，一般財団法人 松下美術館，一般財団法人 三宅美術館，一般財団法人 陽山美術館，公益財団法人 児玉美術館，指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ 以上13施設		
事業開始時点の課題分析	<p>現状，鹿児島県歴史資料センター黎明館（以下「黎明館」）においては，鹿児島県内の博物館，美術館及びその他これらに類する施設（以下「博物館」）のほぼ全ての施設が加盟し，県内市町村を網羅する，鹿児島県博物館協会（以下「県博協」）の会長館・事務局を担っており，県内博物館相互の連絡提携や博物館職員の研修，情報発信など，中核館としての役割を担っている。</p> <p>鹿児島県では，平成27年7月に，「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼，造船，石炭産業」が，世界文化遺産として登録された。これらに関わる県内各地の歴史や文化への関心は高まっており，観光資源としても注目されている。鹿児島市の観光施設でも，外国人観光客が着実に増加しているが，今後も，県外からの観光客のみならず，外国人観光客が増加すると予想される。南北600kmに及ぶ県内各地域の博物館を網羅して，外国語で紹介するパンフレット等は重要である。県博協では，平成27年4月に日本語版の冊子を作成し発行したが，これは県博協設立50周年事業として行われたものであり，県博協が外国人対応の冊子を作成することは，財源の裏付けもなく，困難な状況にあった。このため，平成28年度，地域の核となる美術館・博物館支援事業に対して，鹿児島県ミュージアム国際化実行委員会を組織し，鹿児島県地域ミュージアム情報発信事業として申請を行い，交付を決定いただいた結果，英語版の翻訳・刊行を行うことができた。また，同様に平成29年度は，中国語（繁体字）版の翻訳・刊行を行うことができた。県博協加盟施設では，是非引き続いて，外国語版刊行に取り組んでほしいとの要望が強い。外国人の動向を見ると，平成28年度の，鹿児島県の観光の動向調査で，外国人延べ宿泊者数では，韓国が13.9%，中国も13.9%とほぼ同じ割合であるが，これまで英語，中国語（繁体字）と刊行してきたことから，今回は韓国語にしたいと考える。ただ，県博協の財源は，加盟施設の会費（3,000円）のみで余裕はない。外国語対応の冊子を，県博協で作成することは，困難な状況にある。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は，鹿児島県内の各地域に所在する，県博協加盟施設（平成30年3月末現在，75施設。約29%が鹿児島市内にある。）について，それぞれの基本情報を簡潔に整理して，外国語表記により，広く紹介することを目的とする。</p> <p>世界文化遺産登録も，一過性のものとしなないためには，継続した情報発信が必要である。また，平成30年を中心として，鹿児島県内外で明治維新150周年を記念する様々な事業が予定されている。本事業により，鹿児島のどこにいけば，その地域の歴史や文化に関わ</p>		

	<p>る情報が得られるのか、という課題に一定の対応ができる。</p> <p>県内各地域の歴史や文化に関わる情報を、外国人観光客へいかに伝えるかが重要である。ただ個々の施設では対応が難しいため、県博協加盟施設の全体をまとめた情報提供を行う必要がある。このことにより、外国人観光客に対して簡潔に情報を提供し、県内各地域への関心を高め、鹿児島県の歴史と文化について関心を深めていただく。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は次の事業によって構成される。</p> <p>「地域文化の振興と国際発信」のうち、「多言語化による国際発信」に取り組む。具体的には、鹿児島県内の各地域（鹿児島地域、南薩地域、北薩地域、始良・伊佐地域、大隅地域、熊毛地域、大島地域の7地域）に所在する、県博協加盟施設について、それぞれの基本情報である、施設の特徴、開館時間・休館日・観覧（入館）料、アクセス、連絡先・URL等を簡潔に整理して、外国語（韓国語）表記により、広く紹介するため、『ミュージアムガイド』の外国語（韓国語）版を作成し発行する。県博協加盟施設や県内各機関や空港・駅などの公共施設等に配布し、相互の施設利用を促す。また、韓国語教室など韓国人の講師などがある施設などに配布し、アンケートを依頼する。そのほか、『ミュージアムガイド』の外国語（韓国語）版を、県博協のホームページに載せ、広く情報を国内外に発信する。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>（1） 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p>□イ ユニークベニューの促進</p> <p>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p>□エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>（2） あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p>□ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p>□ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>（3） 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p>□ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p>□イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>平成31年3月中旬から『かごしまミュージアムガイド（韓国語版）』を鹿児島県博物館協加盟施設や、県内各機関や空港・駅などの公共施設及び韓国語教室など韓国語のネイティブがいる施設等へ配布し、アンケートをとり、集計したところ、以下のような意見が寄せられている。</p> <p>加盟施設に配布したところ、使いやすさの面では、「冊子の大きさがコンパクトで手取りやすく、エリア別に色分けしているので、訪問場所に応じた情報を得やすい。」とか「韓国の観光客が来館し、感想を伺ったところ喜ばれた。母国に帰ったらPRするとのことでした。」という意見の他、「ネット上での情報のアクセスのしやすさが重要である。」などの指摘もある。</p> <p>また、韓国人講師等のアンケートによると、「韓国語訳は、概ね自然でわかりやすい。」</p>

「鹿児島県内にある73のミュージアムの必要な情報が、コンパクトなサイズにまとめられていて、非常に使い勝手が良いのではないか。」「博物館と美術館等向けに来る人にお勧めしたいガイドブックだと思う。地域によって分けている点が、訪ねる旅行者たちにはかなりの情報になると思う。」という意見がある一方で、「直訳されていて文章が堅い、自然体ではないと思われる部分も少なくなかった。しかし、それで全く意味がわからないことなどはない。日本語がわからない人でも理解できるレベルの文章ではある。」とか「県内地図の中に、各施設の場所が一目でわかるように位置情報を記した方がいい。」「外国人向けのパンフレットを製作する場合には、その国の人と日本人と一緒に作った方が良いのではないか。」という御指摘もいただいた。

『かごしまミュージアムガイド』韓国語版は、各施設での外国人対応を援助するのみならず、鹿児島県全体の博物館や美術館などの施設について、全容を分かりやすく紹介できることから、長期的に見ても、意味のある取組と考えられる。また、県博物館協会加盟施設における、インバウンド対応の意識を一層高める効果が期待される。今回の取組を踏まえ、県博物館協会協加盟施設からは、是非引き続いて、外国語版刊行に取り組んでほしいとの要望が出されている。

【事業実績】

1 刊行物「鹿児島ミュージアムガイド（韓国語版）」設置状況については、次の写真のとおり

(1) 鹿児島空港【国際線】



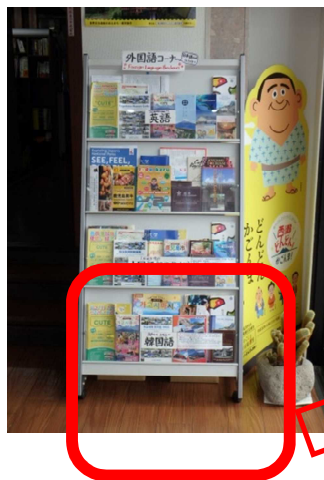
(2) 鹿児島空港【国内線】



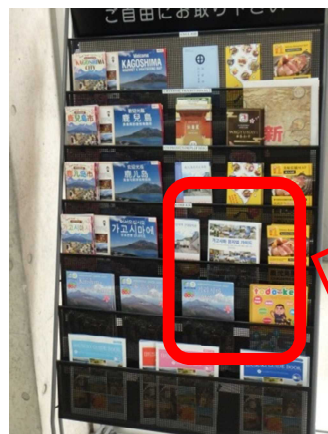
(3) 山形屋【百貨店】



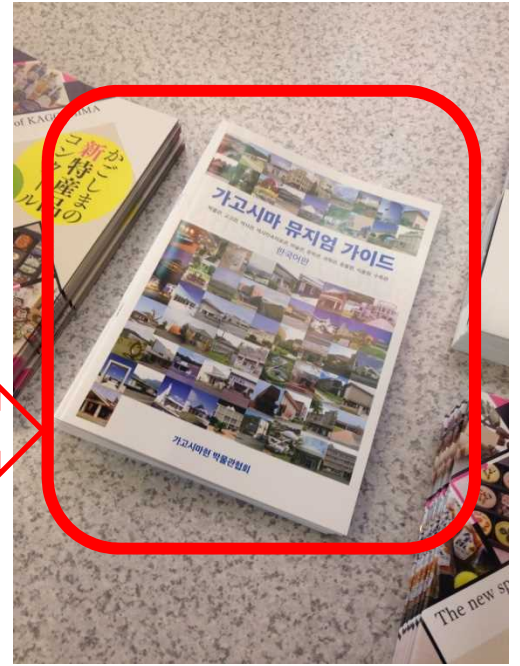
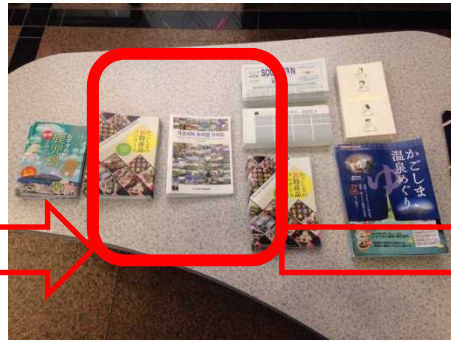
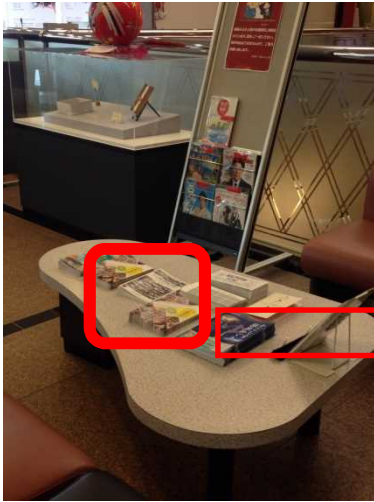
(4) 鹿児島まちあるき観光ステーション【観光案内所】



(5) 天まちサロン【街かど案内所】



(6) 鹿児島市維新ふるさと館【資料館】



2 刊行物配布後のアンケートの集計については、次のとおり

(1) 韓国人

大学の韓国人講師，県国際交流課の国際交流員，鹿児島市国際交流財団職員，鹿児島韓国語スクール講師等

・ 鹿児島を訪れる韓国の観光客のためにガイドブックを発行していただき韓国人として感謝したいと思います。鹿児島県にある73か所のミュージアムの必要な情報がコンパクトなサイズの冊子の中にまとめられていて、非常に使い勝手がいいのではないかと思います。韓国語訳も概ね自然で分かりやすいものになっています。

特に表紙に73か所のミュージアムの写真が掲載されていて、一目で分かるようになっていることがとても気に入っています。すべてのミュージアムについてアクセスが載せられていますが、最後のページにでも、鹿児島の市電やJRの路線図，時刻表，一日乗車券などの便利なチケットに関する情報があると、観光客にはよりありがたいのではないかと思います。

・ 直訳されていて文章が堅い，自然体ではないと思われる部分も少なくなかったですが，それで全く意味が分からないことなどはありませんでした。日本語が分からない人でも理解できるレベルの文章ではあると思います。

・ 地域ごとに色が決まっており，説明ページでも色を分けて使用していることを，最初は全く気づかなかったです。地図のページに地域名だけでなく，各施設の番号も一緒に入れていただくと，市内からの距離などが分かり，訪問客が次の計画を立てる際に，参考にするなど，行動しやすくなるのではないかと思います。実は，以前から，韓国の方（検索エンジンなどを利用し）から情報を集めようとする時，何も出てこない施設が多数あるため，一目で分かる資料があればと思っておりました。

また，内部の写真なども載せたら，各施設の雰囲気がよりはっきりと伝わるとと思います。鹿児島に初めて訪れる韓国の観光客は鹿児島（薩摩）の歴史や文化などを知らない人がほとんどであるため，やはり文字だけで全体像を掴めるには難しいところがあると思われま

す。

- なかなか博物館と美術館等向けに来る人にお薦めしたいガイドブックだと思います。地域によって分けている点が、そちらに訪ねる旅行者たちに、かなりの情報になると思います。

追加的に「1日おおすすめコース」などを加わったらいいと思います。例えば「西洋の所をよく見られるところ」とか、「西郷どんに関しての1日ミュージアムツアー」とか、計画してお薦めくださったらもっと面白いと思います。

- 地図について、鹿児島県の全体図を大きくして、その中に各施設の番号を記載すれば、距離感や周遊所要時間がある程度予想できるのではないかと。各施設の交通案内のところにアクセスが分かるような簡単な路線図を掲載したらいい。QRコードもあれば便利。移動しながらスマホでも確認できます。

外国人向けのパンフレットを製作する場合は、最初からその対象国の人の日本についての理解度、予備知識の水準を限りなくゼロと想定して、白紙の状態から案内文、説明文を作った方がいい。日本人向け、鹿児島県人を主対象とした説明文を機械的に翻訳した韓国語にしようとしても歴史的用語や局地的な名称は、ごく一部の特殊な日本研究者以外には理解できないと思われる。

もし、本気で、パンフレット類やガイドブック類を作ろうと思うのなら、例えば、「地球の歩き方」風に「韓国人のための鹿児島歩き方」という感じで、韓国人スタッフと日本人と一緒に作った方がいいのではないかと。

(2) 博物館協会加盟施設から

① 情報量や表記、使いやすさ

- 冊子の大きさも手に取りやすく、持ち運びにも便利です。また、エリア別に色分けがしてあるので、訪問場所に応じた情報を得やすいと感じました。
- 韓国の観光客が来館し、感想をうかがったところ、喜ばれました。母国に帰ったらPRするとのことでした。
- コンパクトでとても見やすく工夫されていると思います。
- 韓国語を読める職員がいないので、参考になるかは分かりませんが、全体的にすっきりしていて、とてもよいと思います。案内の写真も各施設の特徴が出ていて、興味が湧くと思います。パッと開いて、読んでみようと思うレイアウトもすばらしいです。
- ハンディタイプで手に取りやすく、情報は必要事項をコンパクトにまとめられていると思います。写真も美しく、オールカラーで見やすいと思います。
- URLが記載されたことで、より情報を届けやすくすることができたと思います。ハングル文字に慣れていないせいか、フォントサイズが小さく見えました。
- 各館の基本的な施設情報が表記されているため、適切な情報量だと感じる。
- 紙媒体も用意すること自体はよいと思いますが、このガイドを利用してもらうべき対象者は、むしろ「ネット上での情報アクセスのしやすさ」の方が重要だと思います。今時、わざわざ紙情報を重視する観光客はかなり稀有な存在だと思います。

黎明館のHP上から「博物館協会」→「ミュージアムガイド」と辿れば、PDFデータを見つけることができますが、まず、黎明館のTOPページにわかりやすく表示することはできないでしょうか。

次に「リンクフリーにして」、加盟館及び広くリンクを張ってもらい、拡散してもらえよ

うに明記すべきと考えます。

そして、「ユーザーを意識した使い勝手重視の表示・閲覧方法にすべき」と考えます。解像度を上げていることに問題があるのですが、ページが細切れになっていて閲覧が極めて不便です。基本的には、スマホでの閲覧がもっとも多く利用が見込まれるので、スクロールで1冊分全部見られるようにすべきだと思います。

- ・ 見やすくとてもいいと思います。
- ・ 韓国からの旅行者や観覧者にとって、博物館の内容をわかりやすく伝えるハンドブックだと感じている。
- ・ 旅行者は、ネット情報で動くと思いますので、海外の方もネット検索できるようにしたいと思います。

② その他

- ・ 全体のマップを大きくするか、各エリア毎に拡大地図を掲載し、施設のNo.を表記し、位置関係が分かるようにすることで、旅行の計画が立てやすくなるのではないかと思います。また、公共交通機関の情報、メインの駅や建物等の情報もあれば、より便利になると思いました。
- ・ 外国人の来館者が増えてきているので、このガイドを参考にさせていただきます。
- ・ その時代の社会情勢で来館者の国籍もいろいろですが、英語、中国語、韓国語があれば、一応外国人の来館者に対応することは充分かと思います。当館にも韓国人の来館者がたびたびお見えになりますので、積極的にお配りしたいと思います。
- ・ 韓国からの旅行者が多くなってきていますが、現状は、ハングル文字対応などには、追いついていないです作成いただき感謝いたします。
- ・ 冊子（紙ベース）にするより、データをHPなりアプリなりに変更した方が効果的だと思います。旅行会社の方々（利用者の方）に見てもらえるようにもっと工夫した方がいいと思います。
- ・ 施設写真のみでなく、代表的な収蔵品や展示空間の写真があると、具体的な施設のイメージが伝わるのではないかと。

3 かごしまミュージアムガイド（韓国語版）を掲載しているHPは、次のとおり

<http://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/> > 来館案内 > リンク集 > 鹿児島県博物館協会 > ミュージアムガイド > 『가고시마 뮤지엄 가이드 한국어판』(かごしまミュージアムガイド(韓国語版))